

【日程】

実施日	学校名	生徒数	教員数
令和8年6月2日(火)～5日(金)	佐織、佐織西中学校	168人	21人
令和8年6月9日(火)～12日(金)	永和、立田、八開中学校	137人	21人
令和8年6月16日(火)～19日(金)	佐屋中学校	162人	12人

生徒の感想文

中学生体験学習事業で、東北地方の被災地を訪れました。実際の被害の様子を見学したり、当時の映像を見たり、被災された方々の話を聞いたりしました。そこでは、津波による被害の大きさや被災された方々の苦しみや悲しみを知ることができました。また、震災で家族を亡くされた方のお話を聞き、今私たちが家族と一緒に過ごしていることは当たり前ではなく、幸せなことだと改めて感じました。さらに、もし自分たちが災害に遭ったらどう行動したらいいかを考えるきっかけとなり、日頃から災害に備えることの大切さを学びました。

今回の震災学習で学んだ震災の恐ろしさや被害を受けとめ、南海トラフ地震に備えていきます。そして、この学びを胸に刻み、災害が起きた際には自分の命を守るだけでなく、周りの人と助け合い、落ちついて行動できる人を目指します。



私は修学旅行での震災学習にて、自分にとっての日常が当たり前ではないということ、そしてここまで無事に育ててくれた両親のありがたさについて実感しました。向洋高校に今もなお残る風景を目にしたとき、穏やかな日常が一瞬にして崩れ落ちたことに言葉が出ないほど衝撃を受けました。毎日親に「行ってきます。」と伝えられて、友達と談笑できる日々は、かけがえのない貴重なものと学びました。佐藤愛梨ちゃんの話聞いたことや被災地を訪れた経験を生かし、今後は日頃から親・先生・友達・環境など全てに感謝しながら一日一日を大切に過ごしたいです。また、東日本大震災によって起こった出来事のような悲劇を繰り返さないために防災の意識をより高めていきます。

東日本大震災での、津波や火災の怖さなどを知ることができた。一つの判断ミスで、幼い命がたくさん失われたという話を聞いて心が痛くなった。どれだけ早く、正確な判断ができるかというのが大事だと思う。校舎の一番上のところが欠けていたり、3階のカーテンが燃えていたりして、津波の恐ろしさを知った。生徒が使っていた教科書などが散らばっていて、この地震が起こる前は当たり前はこの学校で暮らしていたんだと思うと悲しくなった。今、親がいて、友達がいることは当たり前ではないと思い知らされた。いつ死んでもおかしくないこの人生を大切に生きたい。

